

教育課程論

教職課程科目/2単位/T授業

担当教員 住岡 敏弘

■使用テキスト 『高等学校学習指導要領解説 総則編』 東洋館出版

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

教育課程は学校の教育計画ともいわれます。生徒が学習することの意味や喜びを実感しながら学習に意欲的に取り組み、確かな学力や豊かな人間性等をはぐくむことができるかは、質の高い教育課程の編成とその実施にかかっています。本通信学習では、質の高い教育活動が常に展開されるようにするには各学校において教育課程をどんな理念や考え方で編成、実施、評価すればよいかを、テキスト「高等学校学習指導要領解説 総則編」の第1章から第8章に示す事柄をもとに学習します。学習に当たっては、各章等に示すポイントを参考にしてください。

到達目標

- (1) 今次の教育課程の改訂の経緯・改訂の基本方針・改訂の要点について理解し、説明できる。
- (2) 教育課程の意義について理解し、説明できる。
- (3) 教育課程に関する法制について理解し、説明できる。
- (4) 教育課程編成の一般方針について理解し、説明できる。
- (5) 各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動の授業時数等について理解し、説明できる。
- (6) 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項について理解し、説明できる。
- (7) 教育課程の編成の手順と評価について理解し、説明できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 総説

この章のポイント

高等学校学習指導要領は、時代の変化や子供たちの状況、社会の要請等を踏まえ、おおよそ10年ごとに改訂されてきました。直近では平成30年3月に改訂され、令和3年4月から学年進行で施行されることになっています。この章は、新学習指導要領が改訂された経緯、改訂に当たっての基本方針、改訂の要点等が記述されています。改訂の経緯、基本方針、改訂の要点等を通して新学習指導要領の特徴をとらえましょう。

第1節 改訂の経緯及び基本方針

この節のポイント

新学習指導要領が、どのような背景の中でどのような考え方に基づいて改訂されたかを中央教育審議会答申（平成28年12月）をもとにしてとらえましょう。

第2節 改訂の要点

この節のポイント

学校教育法施行規則の改正及び総則の改訂の要点が記述してあります。総則は学習指導要領の基本的な考え方を示す重要なものです。改訂の要点は何か次の項目についてとらえましょう。

- 1 学校教育法施行規則の改正の要点
- 2 前文の趣旨及び要点
- 3 総則改正の要点
 - ・高等学校教育の基本と教育課程の役割（第1款）
 - ・教育課程の編成（第2款 特にア、イ、ウ、エ、オ）
 - ・教育課程の実施と学習評価（第3款 特にア、イ）
 - ・単位の修得及び卒業の認定（第4款）
 - ・生徒の発達への支援（第5款 特にア、イ）
 - ・学校運営上の留意事項（第6款）
 - ・道徳教育に関する配慮事項（第7款）

第3節 道徳教育の充実

この節のポイント

平成28年12月の中教審答申を踏まえ、高等学校における道徳教育に係る改訂の基本方針と要点をとらえましょう。

第2章 教育課程の基準

この章のポイント

この章では、教育課程の基準について学習します。教育課程の意義、教育課程に関する法制についてとらえましょう。

第1節 教育課程の意義

この節のポイント

教育課程とは何かということを念頭におきながら、教育課程が学校の教育計画と言われるわけと教育課程編成の基本的な要素についてとらえましょう。

第2節 教育課程に関する法制

この節のポイント

教育課程の基準とそれに基づく教育課程の編成の在り方についてとらえましょう。また、教育課程は法令に基づいて編成されることから関係法令とその内容について理解しましょう。

- ・教育課程とその基準
- ・教育課程に関する法令

第3章 教育課程の編成

この章のポイント

この章は、学習指導要領の総則について述べています。総則は、教育課程の編成・実施について各教科・科目等にわたる通則的な事項について示しているもので、各学校はこの総則に示されている事項に従い創意工夫を生かして教育課程を編成・実施することになります。そのため、この章に示す事柄は教育課程の編成に当たって重要なものとなります。

各節の学習に当たっては、第1章第3節の改訂の要点と関連づけて考察するとよいでしょう。

第1節 高等学校教育の基本と教育課程の役割

この節のポイント

教育課程編成の基本的な原則を示すとともに、教育課程編成に関し特に配慮すべき事項、学校教育を進めるに当たっての基本理念について、次の4項目について述べています。この4項目は、教育課程の教育課程編成に当たって欠くことのできない重要な部分です。記述の「〇〇するものとする」、「〇〇なければならない」等に注目して、記述内容や言わんとすることをそれぞれの解説をもとに具体的な教育活動をイメージしながらとらえましょう。

- 教育課程編成の原則
- 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開
- 育成を目指す資質・能力
- 就業やボランティアに関わる体験的な学習の指導
- カリキュラム・マネジメントの充実

第2節 教育課程の編成

この節のポイント

教育課程編成の際の重要事項が述べられています。高等学校の教育課程の編成を構造的にとらえるように、各教科・科目、特別活動、総合的な探究の時間の構成や卒業までに履修させる単位数等に注意して考察していきましょう。

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

各学校の教育目標の設定と、教育課程の編成についての基本的な方針の家庭や地域との共有、総合的な探究の時間について学校が定める目標との関連について示している。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力

「生きる力」を育むために、学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力を目指すのかを明確にすることが求められています。

3 教育課程の編成における共通の事項

教育課程の編成に当たって、各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動等を明確にしておかなければなりません。次のことについてとらえておきましょう。

- ・年間授業週数 ・週当たり授業時数 ・ホームルーム活動の授業時数
- ・生徒会活動及び学校行事の授業時数 ・授業の1単位時間の運用 ・年間授業日数

4 学校段階等間の接続

中学校教育までの学習の成果が高等学校教育に円滑に接続され、高等学校教育段階の終わりまでに育成することが求められています。

5 通信制の課程における教育課程の特例

第4章 教育課程の実施と学習評価

この章のポイント

各学校は、学校の教育目標を達成するために教育課程を編成し実施しますが、その際、教育課程に基づく教育活動等が成果をあげているかなどについて適切に評価をすることが必要です。評価については、第2節をもとにとらえましょう。

第5章 単位の修得及び卒業の認定

この節のポイント

単位の修得の認定、卒業までに修得させる単位数、各学年の課程の終了の認定、学校外における学修等の単位認定についてとらえておきましょう。

第6章 生徒の発達の支援

この節のポイント

ホームルーム経営、生徒指導の充実、キャリア教育の充実や学習の遅れがちな生徒の指導における配慮を通じて、生徒の発達の支援のあり方についてとらえておきましょう。

第7章 学校運営上の留意事項

この節のポイント

学校評価等との関連で教育課程の改善についてとらえましょう。また、教育課程をめぐる家庭や地域社会との連携及び協働、学校間の連携について、その意義と連携や協働のあり方についてとらえましょう。

第8章 道徳教育推進上の配慮事項

この節のポイント

道徳教育を推進する上で、学校の指導体制や全体計画、家庭や地域社会との連携の意義についてとらえましょう。また、豊かな体験活動の充実やいじめの防止に向けた道徳教育のあり方についてとらえておきましょう。